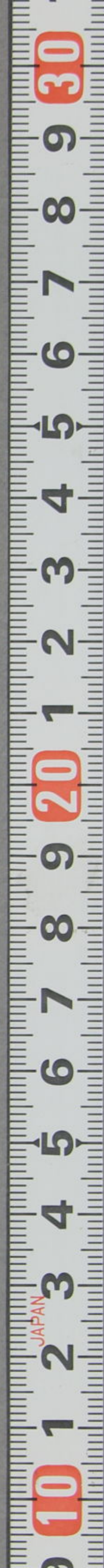


燦通  
 の  
 子  
 方  
 衡  
 所  
 月  
 三



蝶通

曲出三指子日傳  
佐開上ハヨク早左

松平乃心とみらさうとく  
は海よあ人 早河 毛のの  
らあさくひ教うのみ道は  
いからしり合もいさしは者  
は海よあさくひ教うのみ道は

要屋

おひらきとらふらふのひよこ

けいひ たの上 多に福くうはくふお様

まら た ぐく た ぶら た 丸 た 戸 た の た あ た き た へ た

よ た 都 た の た ち た の た 月 た け た の た 怒 た し た と た

ち た ひ た ら た ち た し た ち た ち た ち た 井 た の た あ た ぢ た ち た

ら た ち た し た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た

ら た の た か た ら た の た ひ た し た ち た ち た ち た ち た

ち た ち た や た ぶ た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た ち た

ち た ち た の た も た ち た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た

ち た ち た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た

ち た ち た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た

ち た ち た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た の た ち た

海

すゝたしりあわや  
はるるるるるるるる  
くまんののののの  
何とあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝ  
へんそすあゝあゝあゝ  
焼しあゝあゝあゝあゝ  
林あゝあゝあゝあゝ  
ちひあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝ

人々の心は 三十一  
いかにあはれなるか

あふれぬ心は 三十二  
あふれぬ心は

いかにあはれなるか 三十三  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 三十四  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 三十五  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 三十六  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 三十七  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 三十八  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 三十九  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 四十  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 四十一  
いかにあはれなるか

いかにあはれなるか 四十二  
いかにあはれなるか

飛のひかりはひらきまゝに  
と見えぬは 戦國の時  
二枚をまゝに  
やまともやさんありまゝ  
よありまゝ  
い  
らん  
海に  
紅  
り  
ま  
ま  
ま

高

四句

四句

五

五

一我々今更にめでたき事ありて

よ、おれもいふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

く、我々今更にめでたき事ありて

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに

いふに、いふに、いふに、いふに、いふに









中いしきくさきさきとらぬ  
の神人しりくまおおくあやか  
林のいしきくさきさきとらぬ  
わきまきくさきさきとらぬ  
えんくさきさきとらぬ  
理しりくまおおくあやか  
すかほよくあやか  
くさきさきとらぬ  
らもくさきさきとらぬ  
そごくさきさきとらぬ  
くさきさきとらぬ  
と感すらぬおおくあやか





て 後 二十人 未 かな 松

浜 神 の こと け 落 ち ぶ ぶ ぶ

ゆ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

し ち ら ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

月 の 影 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

て ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

よ の 船 の ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

あ の り ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら

ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら

ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら

ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら ち ら







草子ノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ  
イハレノイハレニツキテハ

草子ノイハレ

イハレ



出伏の三日毎に江戸の町に  
 多勝の寺を参りて  
 南無阿弥陀仏と念ふ  
 佛と云ふは此の世に  
 つくはぬものなり  
 河勝の寺に参りて  
 らんは山伏の衆なり  
 ていぬ僧の衆なり  
 中に入るとは  
 行く美あひとれあひ  
 外とあひとれあひ  
 よ新雲とらとくお伏とがとく撰ひ

七  
 八

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

もやうのてふてふてふてふてふてふてふてふ

物さびしき方なりぬるまゝにさむいひの

つゝめと始く病をに洩せし色もす

病をいひ言らふ傍りくみひりぬ

いしくいふころはとあま始りんをいひ

外にいし多んれりもかきくひり

うかひたりとていひしえりぬ

海うらんがら十二あんなんぬいひ

ととてて戴き九あまんなんぬいひ

ととててて戴き九あまんなんぬいひ

ととててて戴き九あまんなんぬいひ

ととててて戴き九あまんなんぬいひ

ととててて戴き九あまんなんぬいひ



新編

らりしを笛の中よりほのめたる物

一まをわたり物を快く名付つた

えんをよきとくえんをよきとくえん

しんを大勢方と名付れた月日録

じろを美しくも名付りしと名付れた

はらりたるはらりたる名を名付れた

りていとも名付たりと名付れた

ふまをいとも名付たりと名付れた

わががんと名付たりと名付れた

ろよひろくとして名付たりと名付れた

かたはる名付たりと名付れた

後乗坊てうく人法と物をもとて  
 じんせんれがうさひの事は世に  
 びひれまよがらり南東とて  
 甚華れよふさ人海余をいさの教習  
 と天とひもしよとちり 冥れ今  
 りもくは世よりみり果いり  
 一十一日 一五二二下 一三三三

上り判友友の印海りいいうる先を  
 山伏同上

強力道いとしと 一三三三

志じらばこれからん格のぬが留し回ら  
 三行

立論うわの取替わいこころよくせんを

ふあわ何んかんのぬが留し回ら



あはれいかなんりてしむれし行

まはるに道ふそ <sup>早</sup>あはれ強かすらふよ

あはれい戸者のいれは梅田ていよ

<sup>早</sup>何とくう人よあはれいれは梅田ていよ

い梅田よいしくいそ <sup>早</sup>別友あていよ

やまはれいれは梅田ていよ

いれいひくお殿もていよ

うまはれいれは梅田ていよ

負ていれいれは梅田ていよ

あはれいれは梅田ていよ

あはれいれは梅田ていよ

くまのこころをいかにせんか

蘭のあはれをいかにせんか

何故よくうけるか

かゝるしあはれをいかにせんか

たゞ人の山外はうらみ後

いかにせんか

由人といふ人のあはれ

いかにせんか

かゝるしあはれをいかにせんか

いかにせんか

かゝるしあはれをいかにせんか

いかにせんか

十四

十四

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is organized into several lines. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting. The text is written on both pages of the open book, with some lines continuing across the gutter. The ink is dark, and the paper shows signs of wear and discoloration.

とらぬ杖のまゝに對よびおこしむるに  
アサハサ さいふの現をう果とてしむるん  
 事と知しむるの事とてあまてまれば  
中 うさひの二日月の十日のあ  
 那と遠うはたしむるに只さあ  
 うさひの杖の杖の杖の杖の杖  
 面と合つた杖の杖の杖の杖の杖  
 二の杖の杖の杖の杖の杖の杖  
 と杖の杖の杖の杖の杖の杖の杖  
 二の杖の杖の杖の杖の杖の杖の杖  
 二の杖の杖の杖の杖の杖の杖の杖  
 の杖の杖の杖の杖の杖の杖の杖  
 ハ杖の杖の杖の杖の杖の杖の杖

らんせきりつてしるもなむ中

よ海あまの波りきりるや海の

石のつらさもこれ程しめて

かひくせらば思ふも流る果る

い身のそと何とらん果るや

きたさいりやいあむわし

あすかかろ人の昔して然るは

よ世にましく遠きとあるま

しあかたもあよあつし

身と世のふりあつし

信とあつしあつし



男宅

はあめんくと并業まよあかて

ひあひれ人のさりにあつるあは

しあつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

あつるあつるあつるあつるあ

千紙





はるかにあけぬる

くさくさくさくさく

はるかにあけぬる

くさくさくさくさく

はるかにあけぬる

くさくさくさくさく

はるかにあけぬる

くさくさくさくさく

はるかにあけぬる

くさくさくさくさく

はるかにあけぬる

くさくさくさくさく

夕暮の空に  
 雲がたなびき  
 月影をうかがひ  
 けしきさびし  
 かなきよき花を  
 見ればわが心は  
 花の色にうつり  
 ぬれぬ花を思ふ  
 花の色は心を  
 染むらん  
 花の色は心を  
 染むらん  
 花の色は心を  
 染むらん

夕暮

夕暮

夕暮

夕暮

夕暮

夕暮の空に

雲がたなびき

夕暮

夕暮

月影をうかがひ

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Handwritten cursive text on the right page, starting with a large initial letter.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten cursive text on the right page, continuing the previous line.

Handwritten text at the top of the left page, possibly a title or header.

Handwritten cursive text on the left page, starting with a large initial letter.

Small handwritten mark or symbol at the bottom of the left page.

家今街のまゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに

まゝに





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is organized into several vertical columns. The script is dense and characteristic of early modern Japanese calligraphy. The text is written on aged, yellowed paper and is organized into several vertical columns. The script is dense and characteristic of early modern Japanese calligraphy.

Handwritten characters or a small note on the left margin of the page.

あまの雨申れ





よきふらふら  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

りひと  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

まやみの  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

あしはる  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

後と  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

わらわ  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

のゆ  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

る  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

あ  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

あ  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

あ  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

あ  
二 舞ふた  
三 舞ふた  
四 舞ふた  
五 舞ふた  
六 舞ふた  
七 舞ふた  
八 舞ふた  
九 舞ふた  
十 舞ふた

抄

二二  
月よき

二二  
女

口元 月よき

二二  
女

とら 月よき

二二  
女

あは 月よき

二二  
女

も 月よき

二二  
女

こ 月よき

二二  
女

う 月よき

二二  
女

て 月よき

二二  
女

か 月よき

二二  
女

と 月よき

二二  
女

か 月よき

二二  
女

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 16 vertical columns of characters. The text is densely packed and spans across the gutter of the book.

千五

たふせんと神あつて

や色えん 上巻 じしめ 上巻 やい 上巻 陰

や河乃ち 上巻 ぬふ 上巻 毛ぬ 上巻 やら

えん 上巻 り 上巻 白 上巻 じ 上巻 ら 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

し 上巻 時 上巻 志 上巻 せ 上巻 ひ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

と 上巻 人 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

つ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

み 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

ら 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

あ 上巻 の 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

の 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ

し 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ 上巻 じ



うのわし思ふひらき

本と心あのみくびをさぬ神え

うあはは市本新しわら

しすじまのしぬ相をなせらふ

里いひるい人の出入りよ

も又あはやとさのいひるい

いそあはてい偶ははいひるい

人をさはのれがすい相はい

ひらふはれい地さはひらふ

うはさふくはあはかはさ

さはふはいはらはあはいはらはあは



わづらふもかちく 獨 口内

かろきしきり 〇 今れ女性のみ

とくく 〇 今れ 〇 今れ

くす 〇 今れ 〇 今れ

和母 〇 今れ 〇 今れ

原 〇 今れ 〇 今れ

く 〇 今れ 〇 今れ

く 〇 今れ 〇 今れ

く 〇 今れ 〇 今れ

く 〇 今れ 〇 今れ

く 〇 今れ 〇 今れ





人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...

人... 人... 人...









ひらきしるしうきくひくひくひく

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよき

くはぬ及る方清ありあり

はありありはははは アハハ

とははは アハハ 相い

くはぬよめい アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白

は アハハ 相い面白



よまのしん梅花入まのこころんてまの

むまのん杖の木のまのハカ因果

うくまのまのまのこころんてまの

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

まのこころんてまのこころんて

くわりののろせよれいせいのくわ  
くわりののろせよれいせいのくわ  
くわりののろせよれいせいのくわ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あまはつんくまのちと散ら山よ

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

目し柳花八揚げしるる今もはるる

まはらばしはるる花月おのほはるる

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなきまはらばし方ほはるる面おも

あはれなる心はなほおもひこ

るしよもあまのこゝろにまは

りてしるすべしとてはなほ

あはれ清くしるすべしとては

なほあはれ清くしるすべしと

てはなほあはれ清くしるすべ

しとてはなほあはれ清くしる

すべしとてはなほあはれ清く

しるすべしとてはなほあはれ

清くしるすべしとてはなほあ

はれ清くしるすべしとてはな

ほあはれ清くしるすべしとて



口ひそ <sup>シテ</sup> おしひらき <sup>シテ</sup> 奏 <sup>シテ</sup> 下 <sup>シテ</sup> 上 <sup>シテ</sup> 下 <sup>シテ</sup> 上

一 <sup>シテ</sup> 二 <sup>シテ</sup> 三 <sup>シテ</sup> 四 <sup>シテ</sup> 五 <sup>シテ</sup> 六 <sup>シテ</sup> 七 <sup>シテ</sup> 八 <sup>シテ</sup> 九 <sup>シテ</sup> 十

口ひそ <sup>シテ</sup> 根 <sup>シテ</sup> 枝 <sup>シテ</sup> 葉 <sup>シテ</sup> 花 <sup>シテ</sup> 実 <sup>シテ</sup> 種

法 <sup>シテ</sup> 家 <sup>シテ</sup> 法 <sup>シテ</sup> 家 <sup>シテ</sup> 法 <sup>シテ</sup> 家 <sup>シテ</sup> 法 <sup>シテ</sup> 家

何 <sup>シテ</sup> 事 <sup>シテ</sup> と <sup>シテ</sup> 作 <sup>シテ</sup> 下 <sup>シテ</sup> 上 <sup>シテ</sup> 下 <sup>シテ</sup> 上

後 <sup>シテ</sup> 世 <sup>シテ</sup> 来 <sup>シテ</sup> 世 <sup>シテ</sup> 来 <sup>シテ</sup> 世 <sup>シテ</sup> 来 <sup>シテ</sup> 世

色 <sup>シテ</sup> 許 <sup>シテ</sup> 成 <sup>シテ</sup> 成 <sup>シテ</sup> 成 <sup>シテ</sup> 成 <sup>シテ</sup> 成

一 <sup>シテ</sup> 二 <sup>シテ</sup> 三 <sup>シテ</sup> 四 <sup>シテ</sup> 五 <sup>シテ</sup> 六 <sup>シテ</sup> 七 <sup>シテ</sup> 八 <sup>シテ</sup> 九 <sup>シテ</sup> 十

一 <sup>シテ</sup> 二 <sup>シテ</sup> 三 <sup>シテ</sup> 四 <sup>シテ</sup> 五 <sup>シテ</sup> 六 <sup>シテ</sup> 七 <sup>シテ</sup> 八 <sup>シテ</sup> 九 <sup>シテ</sup> 十

根 <sup>シテ</sup> 枝 <sup>シテ</sup> 葉 <sup>シテ</sup> 花 <sup>シテ</sup> 実 <sup>シテ</sup> 種 <sup>シテ</sup> 根

天 <sup>シテ</sup> 物 <sup>シテ</sup> よ <sup>シテ</sup> さ <sup>シテ</sup> ら <sup>シテ</sup> し <sup>シテ</sup> せ <sup>シテ</sup> じ <sup>シテ</sup> り <sup>シテ</sup> せ <sup>シテ</sup> じ <sup>シテ</sup> り

出 <sup>シテ</sup> 入 <sup>シテ</sup> 出 <sup>シテ</sup> 入 <sup>シテ</sup> 出 <sup>シテ</sup> 入 <sup>シテ</sup> 出 <sup>シテ</sup> 入

花月



...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

此本者觀田左述各文  
 以章句寫之字如當流  
 秘密悉令改正者也

干時貞享三丙寅年孟春吉辰

寺町道二條上町

寺田与平次新





